

新しい糸魚川のまちづくりに向けて

平成17年3月19日、糸魚川、能生、青海の1市2町が合併し、広大な市域とそれぞれの地域ではぐくまれた固有の文化など、多様な地域資源を有する「新糸魚川市」が誕生し、新しい“いといがわ”のまちづくりが始まりました。

個々の価値観や生活様式のみならず社会の潮流が大きく変貌する中で、自らも市の運営に参画し、自らのまちをよくしようという市民の活動も徐々に活発になってきています。

このような変革の機に策定されたこの新しい総合計画のもと、市民一人ひとりの知恵や経験を大いに生かし、

“翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち”

の実現に向けたまちづくりを市民の皆様とともに進めてまいりたいと考えております。

「翠の交流都市」の実現には、産業振興による仕事づくり、安全・安心な暮らしづくりを重点に施策を進め、人口減少に歯止めをかけ、定住を促進することが最も重要であります。

どうぞ、市民一人ひとりがより多くの人や地域とのつながりを大切にしながら、“さわやか”な笑顔で、心身ともに“すこやか”に暮らし、“輝き”に満ち溢れたまちを目指し、お互いが役割を担い合い、成果を分かち合う協働のまちづくりに一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様を始め、市議会並びに総合計画審議会、各地域審議会の方々に心から感謝申し上げます。

平成18年11月

糸魚川市長 米田 徹

